

真の召会生活

(2017年サンクスギビング特別集会)

真実な召会生活の中では、主に対する奉仕がささげられ、
主の証しが人に見られ、主に対する愛が注ぎ出されます。
これは、主のからだの真の表現であり、このからだは主を内容とし、主を表現する器です。

キリストのからだの中での神聖な命の交わり、循環は、召会生活の実際であり、
神聖な命のこの循環は、キリストのからだのすべての肢体を一の中へともたらしめます。

わたしたちは、キリストのからだを建造するために集会し奉仕する聖書的な道を
実行するために、復興された生活を持つ必要があります、
また主に対するわたしたちの愛から流れ出る牧養の労苦を持つ必要があります。

主の回復の目標は、一人の新しい人を生み出すことです。
これは、わたしたちがキリストをわたしたちのパーソンとし、キリストで構成され、
思いの霊の中で新しくされることによって、一人の新しい人の感覚の中で、
召会生活を実行することを必要とします。

召会生活の実行のための基本原則

聖書：I コリント 1:2, 10-13, 3:3-4, エペソ 4:3-6.

I ヨハネ 2:27, ローマ 14:1, 詩 119:140

I. わたしたちは神の諸地方召会の唯一の立場を見て、そこに立たなければなりません——初期の召会生活の実行は、一つの都市に一つの召会、一つの都市にただ一つの召会を持つという実行でした——使徒 8:1, 13:1, 啓 1:11 :

A. 「コリントに在る神の召会へ、すなわち、キリスト・イエスの中で聖別された者たち、召された聖徒たち、それと共に、わたしたちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているすべての者へ、彼は彼らのもの、またわたしたちのものです」——I コリント 1:2 :

1. 召会が「神の」ものであることは、その本質における召会の内容を指しています。
2. 「コリントに在る」召会は、コリントの地方を示しており、召会の存在、出現、実行のためです。そのような地方は諸地方召会の地方の立場となり、その上に諸召会はそれぞれ建造されます。ですから、地方が自然に召会の立場となります。
3. 「キリスト・イエスの中で聖別された者たち、召された聖徒たち」は、召会の枠組みとしての構成要素です。
4. 「それと共に、わたしたちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているすべての者へ」が示しているのは、この書簡が何世紀にもわたって何千もの場所で人々に読まれてきており、また読まれるであろうということです。今日でさえ、わたしたちはこの書の受取人です。
5. キリストが「彼らのもの、またわたしたちのもの」であることが意味するのは、キリストがコリントにいる地元の聖徒たちの分け前であり、また至る所にいるすべての聖徒たちの分け前でもあるということです。彼らはキリストの交わり（享受）にあずかっており、この交わりの中へとすべての信者は信実な神によって召されています——I コリント 1:9。

B. 聖徒たちの間の分裂は、使徒（かしらであるキリストの代理権威）によって罪定めされています——I コリント 1:10-13。

C. キリストは分けられません。すなわち、キリストは唯一であり、分けられることができず、分けられません——13 節。

D. 分裂は肉のものであり、人の方法にしたがっています——3:3-4。

E. わたしたちは今日のキリスト教の分裂した混乱する墮落の下で、わたしたちの実行を見る必要があります :

1. わたしたちはカトリックの異端、プロテスタントの宗派、いかなる種類のクリスチャンのフリーグループにもあずかりませんし、あずかるべきではありません。
2. しかし主イエス・キリストを信じ、彼の血によって贖われ、聖霊によって再生され、分裂を引き起こさず（テトス 3:10）、分裂を作らず（ローマ 16:17）、偶像を礼拝せず（I ヨハネ 5:21）、罪の中に生きない（I コリント 5:11）、キリストにある個別の信者たちを、わたしたちは承認し、受け入れます。それは、たとえ彼ら

が依然として、前に挙げた分派のどれと関係していてもです。

3. わたしたちは、全世界の主の回復にいるすべての信者と一です。そして、ヒラデルヒヤの原則の中で、すべての兄弟たちを愛することを選びます——啓 3:7。
4. わたしたちはいかなる信条も持ちません。わたしたちはただ、聖書そのものによって、また聖書そのものにしたがって正しく訳され、解釈された唯一の聖書を持ちます。

II. わたしたちは宇宙的なキリストのからだの唯一の一を見て、それを守らなければなりません——エペソ 4:3-6 :

- A. 宇宙的なキリストのからだの唯一の一は、その霊のものであり、信者たちはその一を破るべきではなく、平和の結合するきずなの中で熱心に保つべきです——エペソ 4:3。
- B. 全宇宙に唯一無二のキリストのからだがあり、三一の神をその内容としています——4-6 節：
 1. 一つ霊はその内容の本質です。
 2. 一つ主はその内容の要素です。
 3. 父なる神はその内容の源であり、この方は三一としてすべての上に、すべてを貫き、すべての中におられます。
- C. わたしたちは宇宙的なキリストのからだのブレンディングを見て、実行しなければなりません：
 1. 神はからだを調和させ（ブレンディングし）ました（I コリント 12:24）。これはキリストのからだのすべての個々の肢体のブレンディング、ある地域におけるすべての召会のブレンディング、すべての同労者のブレンディング、すべての長老のブレンディングです。
 2. そのようなブレンディングは交際ではなく、個々の肢体たち、地域の諸召会、同労者、長老が享受し、経験し、あずかっているそのキリストのブレンディングです。
 3. このブレンディングは宇宙的なキリストのからだを建造するためであり（エペソ 1:23）、神の大いなる喜びにしたがって（エペソ 3:8-10, 1:9-10）、神のエコノミーの最終目標としての新エルサレムを究極的に完成するためです（啓 21:2）。

III. わたしたちは主の頭首権に服従することによって、またからだによって均衡がとられることによって、召会生活を実行しなければなりません :

- A. わたしたちは使徒行伝から、また使徒第 15 章における使徒たちと長老たちの経験から、決してわたしたち自身で決定しないことを学ばなければなりません。さらに、わたしたちは他の人に提案したり、指示したりするべきではありません。わたしたちのだけれも、これを行なう資格はありません：
 1. わたしたちは主や主人ではなく、収穫物の主でもありません（ルカ 10:2, ヨハネ 4:35）。主イエスだけが収穫物の主、主人、からだのかしらです。わたしたちは自分自身で決定しないことによって、彼を尊ばなければなりません。
 2. もしわたしたちが他の人にどこへ行くべきかを告げるなら、彼らは祈る必要はなく、ただわたしたちの言葉にしたがって行動するだけです。こうすることは主の

地位を奪い、わたしたち自身を主とすることです。これは主に対する最大の侮辱です。

3. あらゆる人は、主の導きについて明確になるまで祈らなければなりません。あらゆる人は主の臨在の中へともたらされて、主と接触しなければなりません。

B. 主の行動のために、わたしたちはまたからだによって均衡がとられる必要があります：

1. 仮に、導く人が、多くの祈りの後、ある事柄について真に負担を持つとします。そのとき彼らが行なうべきことは、交わりを通して彼らの負担を聖徒たちに伝え、聖徒たちに祈るよう求めることです。
2. 最終的に、聖徒たちは主から個人的な導きを受け、それにしたがって行動するでしょう。このようにすれば、だれも個人主義的であったり反逆したりしません。

IV. わたしたちは召会の霊的な憲章（霊的な規則や規律）を実行しなければなりません。

それは十字架、命としてのキリスト、聖霊、キリストの頭首権、からだ、わたしたちの仲間の信者たちに対する寛大な態度、神の御言です：

A. 宮の祭壇は（エゼキエル 40:47）キリストの十字架を表徴し、それは内庭の中心であるだけでなく、宮の範囲全体の中心でもあります。この祭壇は、十字架を予表し、実は宇宙の中心です：

1. 十字架は宇宙の中心として、キリストのすべてを含む死を指し示しており、それは神、人、全被造物を含んでいました。十字架上の死は神にとっては解放であり（ルカ 12:49-50. ヨハネ 12:24）、人とすべての消極的な事物にとっては終結でした（ローマ 6:6. ヘブル 2:14. 9:26-28. ガラテヤ 6:14. エペソ 2:14-15）。
2. キリストの死の中で、神は人の中で死を経過して解き放たれ、人は神の中で死んで終結させられました。主の死は彼の解放でした。わたしたちが十字架を経過すればするほど、命としてのキリストはますます他の人の中へと解き放たれます——Ⅱコリント 4:12。
3. 十字架はあらゆる方向に拡大し、神の建造の隅々に至ります。ですから、わたしたちは神の家の中で神と接触し、彼の豊富を享受することを願うなら、十字架を経過しなければなりません。

B. もしわたしたちが命としてのキリストを持たないなら、召会生活を持ちません。召会生活とは、団体的にわたしたちによって実際化された命としてのキリストです——ヨハネ 10:10 後半. Ⅰコリント 15:45 後半. ローマ 8:6。

C. わたしたちは十字架をもって自分自身を調べるなら、主イエス・キリストを尊び、大きく表現し、高く上げ、尊重し、正しい地位にいて、わたしたちの霊の中の聖霊を経験します。その霊はわたしたちの憲章です。もしわたしたちが語っているとき、その霊の内なる油塗りを持たないなら、停止するべきです——ローマ 8:16. Ⅰヨハネ 2:20, 27。

D. キリストは昇天において、正式に就任して、全宇宙の満ち満ちた頭首権を得ました（エペソ 1:20-22. 使徒 2:36）。キリストは第三の天で、召会に対する万物の上のかしらとされました。彼はまたあらゆる人のかしらでもあります（Ⅰコリント 11:3 前半）：

1. キリストの頭首権は、他のいかなるかしらや小さなかしらもあることを許しません。他のいかなるかしらもキリストに対する侮辱です——コロサイ 2:19、マタイ 23:8-12。
 2. わたしたちは神の家の中でどのように振る舞うかを知るために（I テモテ 3:15）、まず、何を行なうにもキリストの頭首権を侮辱しないように注意しなければなりません。
 3. 多くの兄弟たちはしばしば、どのように主と接触するかを学ぶように励ますのではなく、何を行なうべきかを聖徒たちに告げることによって、無意識のうちにキリストの頭首権を侮辱しています。
- E. わたしたちはキリストのからだによって規制され、拘束され、制限されなければなりません。一方で、わたしたちはからだの肢体として自分の度量の中にとどまらなければなりません（エペソ 4:16）。もう一方で、わたしたちはからだの中で、からだに対して、わたしたちの務めを「十分に果たし」、わたしたちの務めの満ち満ちた度量を満たさなければなりません（II テモテ 4:5）。わたしたちが言うこと、行なうことはすべて、からだの中で、からだを通して、からだのためでなければなりません。
- F. クリスマンが分裂するのは、寛大の霊に欠けているからです。彼らはローマ第 12 章のからだについて話すかもしれませんが、わたしたちはローマ第 14 章なしに、決してからだの生活を持つことはできません：
1. ローマ第 12 章に啓示されているからだの生活を実行するために、わたしたちはローマ第 14 章に啓示されているような、信者たちを受け入れる実行上の学課を学ばなければなりません。それは、召会生活がすべてを含むものとなり、すべての種類の真のクリスマンを含むことができるためです。
 2. そのように受け入れることは、ローマ第 12 章 2 節で述べられている造り変えを必要とします。もしわたしたちが自然的なままであるなら、教理や実行でわたしたちと見方が異なっている人たちを受け入れることができないでしょう。
 3. 人が真のクリスマンであり、新約の基本的な信仰を持っている限り、たとえ彼が教理の面でわたしたちと異なっても、わたしたちは彼を排除すべきではありません。そうではなく、わたしたちは同じ一つ主の中で彼を受け入れるべきです—— 14:1。
- G. 「あなたの言葉は精練されており、あなたのしもべはそれを愛します」——詩 119:140 :
1. 聖書、神の言葉は、神の息吹き出したものです。神の語りかけは神の息吹き出しです。ですから、彼の言葉は霊、あるいは息です。こういうわけで、聖書は霊としての神の具体化です—— II テモテ 3:16、ヨハネ 6:63。
 2. ですから、その霊は聖書の本質、実質です。それは、燐がマッチの本質的な実質であるようにです。わたしたちは自分の霊で聖書の霊を擦って、神聖な火を付けなければなりません。